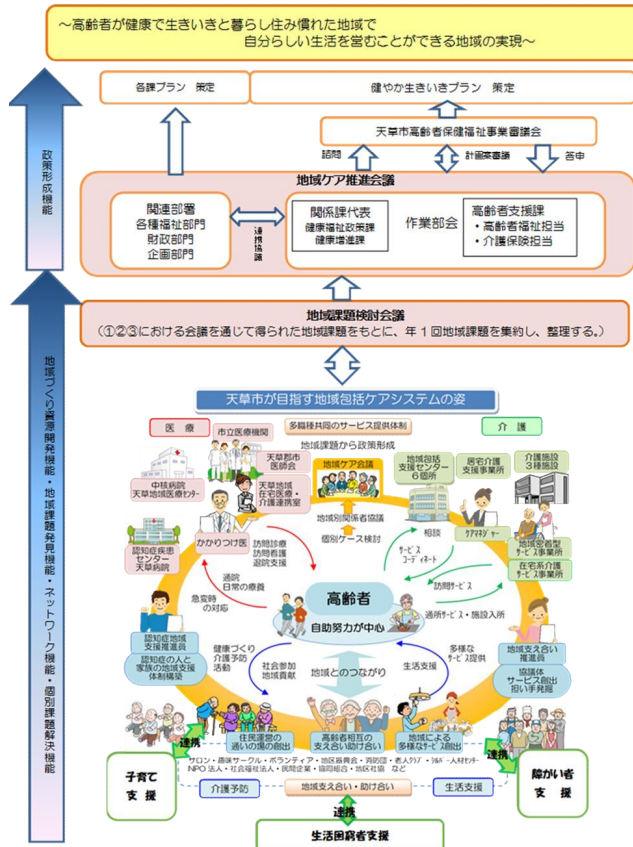


地域ケア会議推進事業

～成果と運営課題への対応～

天草市地域ケア会議体制図



【目的】

高齢者個人に対する支援の充実とそれを支える社会基盤の整備を同時に図る

（法第115条の48第1項）

市町村は、包括的・継続的ケアマネジメントの業務の効果的な実施のために、介護支援専門員、保健医療及び福祉に関する専門的知識を有する者、民生委員その他関係者、関係機関及び関係団体（以下「関係者等」という）により構成される会議（「以下「地域ケア会議」という）の設置に努めなければならない。

（指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準）

第13条 27
指定居宅介護支援事業者は、法第115条の48第4項に基づき、同条第1項に規定する会議から、同条第2項の検討を行うための資料又は情報の提供、意見の開陳その他必要な協力の求めがあった場合には、これに協力するよう努めなければならない。

【第7期計画】

「自立支援型ケアマネジメントに向けた地域ケア会議」に重点を置き、開催頻度を月1回以上とし、多職種の参加による「ノウハウの蓄積・共有」「人材育成」「ネットワークの構築」「社会資源の整備」を推進する。

■ 地域ケア会議のもつ機能



図 2-2 地域ケア会議の持つ機能

「地域ケア会議運営マニュアル」長寿社会開発センター
「地域包括ケアの実現に向けた地域ケア会議実践事例集」厚生労働省老健局

個別課題解決機能

多職種が協働し、個別ケースの支援について検討することで高齢者等の個別の課題解決を支援するとともに、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める機能

ネットワーク構築機能

地域の高齢者等の実態把握、課題解決を図るため、地域の支援者等の関係者間の認識の共有、相互連携を高め、地域包括支援ネットワークを構築する機能

地域課題発見機能

個別ケースの課題検討等を積み重ねることで、地域に共通的に存在する課題や対応の優先度を発見する機能

地域づくり・資源開発機能

地域課題をふまえ、それぞれの地域特性に応じたインフォーマルサービスや見守りネットワーク等、地域で必要となる資源・体制づくりを進める機能

政策形成機能

地域に必要な対応、取組を明らかにし、市町村が中心となって課題解決に向けた新たな施策を立案・実行していく機能

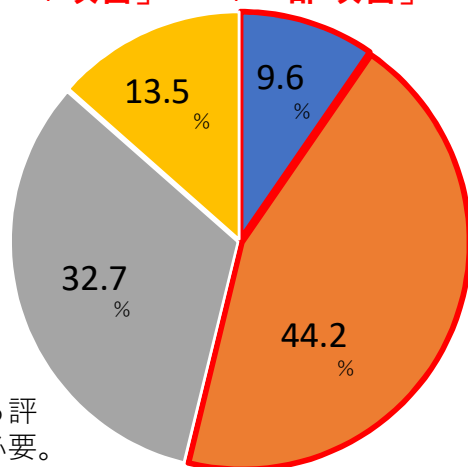
地域ケア会議は、5つの機能を連動させることが必要。個別ケースの積み重ねによって天草市の高齢者がいきいきと暮らしていくために、何がうまくいって何がうまくいっていないのかを明らかにし、どのような自助・互助・共助・公助があったらよいかを考えていく機能をもっている。政策形成機能の発揮だけを目的としていない。

■個別課題解決機能

●R元年度自立支援型地域ケア会議(居宅対象) 3か月後の評価結果(回収率:100%)

検討ケース介護度内訳						
事業対象者	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4
4	18	41	30	8	2	1

検討ケースの約半数が
「改善」・「一部改善」



■改善 ■一部改善 ■変化なし ■悪化

【事例対象】 事業対象者・要支援1・2（ない場合は要介護1程度）

【検討数】 R元年度は104ケースを協議。事例の約9割が軽度者。

【評価結果】

- ・軽度者の事例提供数が昨年度に比べ増えた。地域ケア会議運営方針に沿った運営が図れている。
- ・検討ケースの約半数で改善・一部改善。
- ・介護度が高いケースであれば目標が達成しにくい・悪化しやすいという結果はみられなかった。
- ・介護度の変化のみで評価判定しているケースもあり。目標に対する評価になっているか視点をおさえる目的で評価表の見直しの検討が必要。

【解決できたケースの一部紹介】

- ・家族の意向を優先していたケース。助言を受け本人の気持ちを確認したことで「庭の手入れをしたい」などやりたいことが引き出せた。結果自宅の庭も自分で手入れされるようになり、自作の作品も増え意欲的になった。
- ・やせ傾向のケース。栄養・口腔で助言もらう。デイでのアプローチから丁寧にブラッシングできるようになり、家庭ではたんぱく質の食品を1品取り入れてもらえるようになり、体重増加した。

■ネットワーク構築機能

（開催後のアンケートの意見）

- ・多職種、他事業所の方の意見を聞くことができ大変勉強になった。
- ・違った視点で本人を理解することができた。
- ・それぞれの専門分野からの視点、日頃から関わっている方からの情報により、検討することで互いが見える関係の中で相談しやすい環境ができたなと感じた。お互いの専門分野の情報を理解したり、勉強したり意見を交わせる研修会ができたなと感じた。

地域ケア会議をきっかけに・・・

○個別の地域ケア会議の積み重ねにより顔見知りの関係ができてきた

○お互いの得意なことや役割などの理解がすすんだ

○地域の人材を活用した勉強会が増えた

○顔見知りの関係になったことで、各包括エリアで専門職や事業所などの主体的な集まりが立ち上がってきた

「人的資源」がその活動や目的にあわせて
うまくつながりあえるようになった！

■地域課題発見機能

【令和元年度課題】自立支援型地域ケア会議により抽出された地域包括ケアシステム構築にむけた優先課題

① 相談体制

- ・認知症の家族への専門職の相談対応・窓口の整備
- ・地域包括支援センターの周知
- ・ケアマネやサービス事業所からの対応に関わる相談体制の充実
- ・DV支援体制・引きこもりや若年層に対する支援体制対策
- ・市の介護保険申請対応（認定不要でも認定申請受付あり）

② 在宅医療介護連携の推進

- ・連携先以外の連携が不十分
- ・入退院時の支援連携の充実
- ・家族が遠方にいるので入退院の支援がスムーズにすまない
- ⇒CMが医療機関との連携に支援が必要・医療的な課題があるケースへの情報共有・対応力向上
- ・医療・介護の相談先の周知
- ・医師・CM・介護事業所の連携の充実（医師を含めた事例検討会）
- ・医師からの申請促しが多い⇒総合事業の説明
- ・多職種連携研修会へのCMの参加が少ない
- ・脳梗塞後の軽度者の連携が必要
- ・歯科の現状の周知 医師と歯科医師との連携

③ 認知症施策の推進

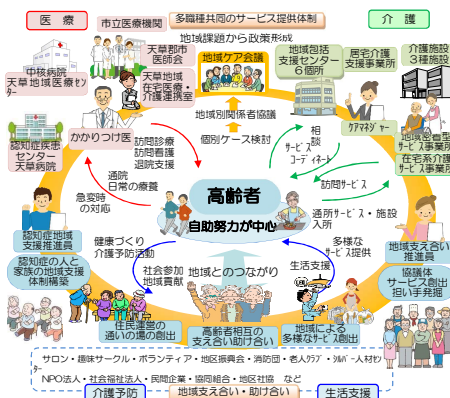
- ・認知症の相談の増加・重症化してからの相談が多い・認知症に伴う高齢者虐待の増加
- ⇒早期発見・早期対応の体制づくり
- ・認知症に罹患する不安
- ⇒認知症当事者の支援体制づくり（当事者の会や研修）集う場の創出、サービス利用日以外の交流・見守り支援、軽度者へのフレイル改善への啓発
- ・認知症への偏見・家族の負担・単独世帯増加に伴う見守りの減少
- ⇒認知症サポーター育成・対応力向上・地域での見守り体制づくり、認知症カフェの周知、家族会の運営支援、在宅ボランティアや受診支援ボランティアの創出、親を介護する世代への認知症の理解推進
- ・かかりつけ医への認知機能低下に関する情報提供のむずかしさ。

④ 介護予防の推進

- ・口腔・栄養・認知症のフレイルについて住民へ啓発の機会がない。住民自身も知識不足。免許返納時に歩けず移動に困ることがある。歯科受診につなげることが難しい（移動手段・支援者が少ないことが理由）
- ・役割がなくなり意欲低下する人が目立つ（特に男性）、高齢者で比較的若い男性が参加できる場の創出。
- ⇒前期高齢者への介護予防。住民の健康づくりに関する意識の向上（保健事業との一体化）
- ・通いの場の立ち上げがストップしている。後期高齢の参加が多く、前期高齢に働きかけが必要。通いの場など活動地域に偏りあり・身近な地域に歩いていく集まりの場が少ない。移動手段がなく参加できていない人もいます。
- ⇒立ち上げ支援・継続支援の必要性
- ・臨きサポーターの活躍の場が少なく、サポーター同士も活動の仕方がわか

⑥ ケアマネジメント・サービス事業所の資質向上

- ・要支援から要介護へ悪化・要介護認定者の増加など要介護認定者が増加している
- ・自立支援に向けたケアマネジメントの実施とサービス事業所の質の向上を図る必要がある
- ・口腔・栄養のアセスメントの不足
- ・資源活用や住民との関わりを意識したフレイル予防などのマネジメントに差がある
- ・サロンや通いの場など地域資源の現場を見たことがない
- ・生活行為向上にむけたアセスメントシート作成（リハ職の活用）
- ・基本的なADL、IADLのアセスメントの深さ
- ・意欲の引き出し方に悩む・要望からのサービス選定



- ・地域資源をふまえて地域の支援者間でのネットワークの強化と個々の専門性の強化
- ・社会参加について多職種との連携や検討が必要
- ・身近に身寄りのない独居高齢者が多く、入退院時調整に支援を来している（遠方にいる家族の理解が得られずらい）
- ・ショートステイ受け入れに限られ調整が難しい
- ・マンパワー不足により、訪問介護・通所系サービス等利用が難しくなっている

⑤ 生活支援サービスの体制整備

- 【見守り】
- ・介護支援ボランティア事業・ほっと安心サポート事業の仕組みがあるが普及しない。つなげにくさがあるのか？
- ・転入者を地域に巻き込む支援
- ・転入後・死別後、独居などの方の見守りが少ない
- ・老人会等の会員減少、リーダーのなり手不足
- ⇒身近に通える地域に通いの場の新規立ち上げ。通いの場が支え合いの役割を担えるよう、支え合い強化の支援が必要。住民同士の助け合いの必要性を共通認識を持ってもらう必要がある。
- 【買い物】
- ・商店の減少による買い物難民の増加
- ・男性のヘルパー利用で調理支援が多い・制限食で対応に苦慮するケース
- ・配達をおこなえる資源も少ない
- ・移動販売が少なく、内容にも偏りがある
- 【ごみ出し】
- ・坂道や距離の問題でごみ出しが1人でできずヘルパーが支援している
- 【移動】
- ・免許返納により生活（買い物や受診）に支障となるため、免許返納ができない認知症高齢者がいる。返納に対する本人・家族の理解が得られにくく、代替手段も不足。返納後の移動手段の知識不足。
- ・乗りやすいバスの工夫
- ・福祉タクシー券で高低差がある地域は対象の検討としてほしい
- ・循環バスのルート拡大
- 【参加】
- ・前期高齢者の活動の場があればよい

【地域ケア会議から見た地域包括ケアシステム構築に向けた天草市の課題と対策】

① 自助支援の強化

介護予防・生活支援・ケアマネジメントの3つの視点で運動性をもった支援

② 人と人とのつながりの強化と活用

住民や多職種の人材活用、また住民と住民、多職種のつながり、専門職と住民のつながりを意識した支援

■地域づくり資源開発機能

～H30年度の課題（○で表記）を受けての令和元年度の取り組み～

●認知症施策の推進

○危険運転と免許返納について

- ⇒認知症に係る関係機関のネットワークにむけた意見交換会を実施（包括・認知症相談センター・警察・精神科3病院・市）

○認知症の方や家族支援の体制構築

- ⇒天草病院・社協とともに、体制について協議。天草病院が主催している家族会を軸に専門職の介入が必要な家族の支援を整備する。
- ⇒地域カフェを立ち上げる際に、地域の脳いきサポーターへ協力を要請し派遣体制を整える。

●介護予防の推進

○通いの場空白地帯・介護予防への意識の地域差

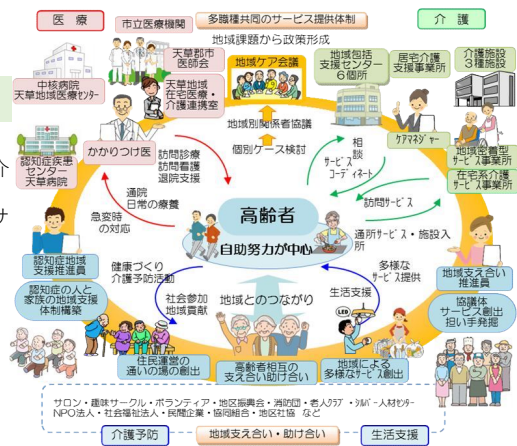
- ⇒空白地帯をターゲットに地域元気アップ教室（週1回×4回）を実施。
- 結果、空白地帯に13か所通いの場が立ち上がる。

○地域住民の主体的取り組みを継続する

- ⇒自立支援にむけた普及啓発を実施する専門職のボランティアチーム「チームコネクション」を立ち上げる。
- ⇒脳いきサポーターがいない通いの場やサロンなどへの派遣体制を整える。

○相談先周知不足・地域資源の情報収集と発信不足

- ⇒「地域包括ケアNavi」・事業所配信メール・暮らしサポートマップで関係機関への周知体制を整える



●在宅医療介護連携の推進 サービス提供 マネジメントの資質向上

○栄養・口腔のアセスメント不足

- ⇒居宅・通所型自立支援サービス事業所を対象とした口腔機能向上に関する研修会の実施。その後通所型自立支援サービス事業所対象とした、口腔機能向上現地支援の実施。

○訪問看護の活用が図れていない

- ⇒天草中央・東ブロック居宅介護支援事業者連絡協議会に課題をまとめ提起。訪看の利用についての研修会実施を支援。

○本人の望む生活の合意形成や 残存能力の分析力向上

- ⇒作業療法士会に依頼し、居宅・訪問介護事業所対象に介護予防ケアマネジメント研修会を実施。

○多職種との連携

- ⇒河浦病院敷地内の関係者が「しきちの会」を立ち上げ、地域課題を共有し、介護医療の連携シートを作成。
- ⇒エリアの連携室と協働し、医療機関関係者・居宅とで「うしぶか医療・介護まるごとの会」を立ち上げる。

●生活支援サービスの体制整備

○移動手段がなく、買い物が困難 地域から店がなくなる

- ⇒移動販売車のルートを提案し、買い物支援へとつながる。
- ⇒買い物情報誌を作成。移動販売業者との連絡も継続的におこなう。

○訪問介護人材不足・ごみ出し時間にあわせて支援することが困難

R2,8月～

→市民環境課と協議し、「**訪問介護事業所専用ごみ回収拠点整備事業**」を創出
(市内12か所) 訪問介護員が収集時間に関係なく、いつでも市内専用回収場所に出せる体制。

注) あくまで訪問介護員の人材確保が目的
便利だから利用するという安易な運用になれば訪問介護員の仕事量が逆に増大します。これまで築いてきた自助力・互助力を低下させる制度にならないよう、マネジメントが運用のカギとなってくる！



○認知症介護による介護負担の増大

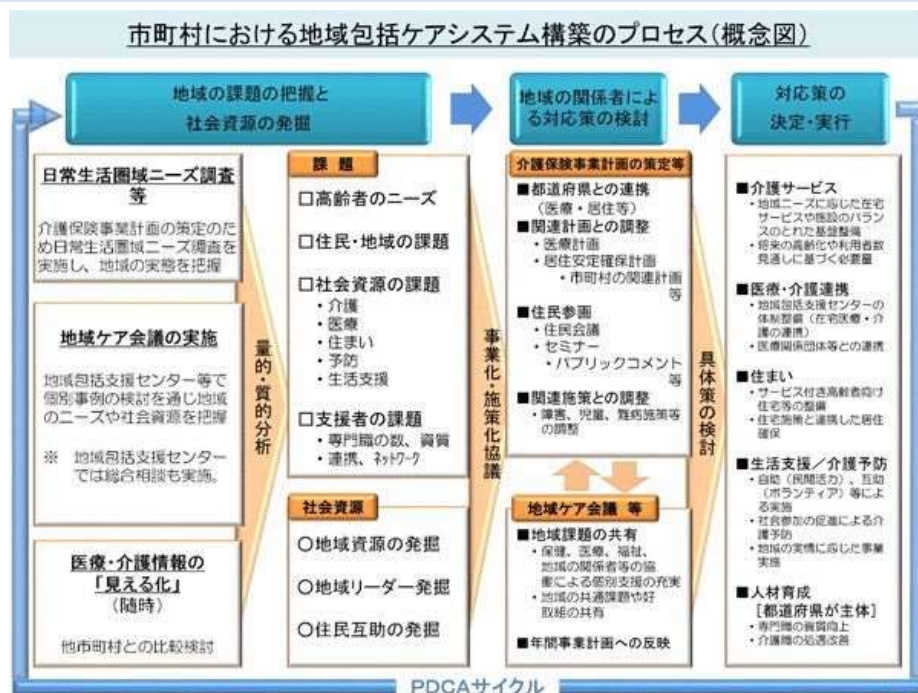
→「**認知症カフェ補助金**」の創出。
市内14か所新規認知症カフェ立ち上げ補助。15か所運営補助。

○訪問介護員・プランナーの生活行為向上アセスメント能力の向上

→作業療法士会・訪問介護事業所・包括と協議し、訪問介護員やプランナーのアセスメント能力向上を目的とした、「**訪問型短期集中サービス事業**」を創出。

注) 訪問型サービス新規導入時にあわせて導入ください！

地域包括ケアシステムの構築プロセス＝PDCAサイクルの徹底～地域ケア会議の5つの機能が発揮されるようになってきた！～



地域ケア会議の手段による個別ケースの積み重ねと地域データとを合わせ地域課題を整理し、地域支援事業関係機関・関係課等と課題を共有する。課題に対しては自助・互助・共助・公助の順で検討し包括運営方針や市や包括事業計画等に反映させるよう、PDCAサイクルを徹底している。

■地域ケア会議の運営に関する令和元年度アンケート結果

（地域ケア会議の目的の普及）

・会議参加者の退室や遅刻が・・・と思います。みんな忙しい中に集まっているので会議に時間作ってほしいと思う。自分の事例の相談だけでなく、事例を通して考えたり、情報交換する場なので、ケア会議の目的の普及も課題に感じた。

（会議準備）

- ・会議のための資料づくりが負担になる。今使っている資料で会議がすすめられるとありがたい。
- ・課題整理総括表があることでとてもわかりやすかった。
- ・課題整理総括表などシート・様式が統一され課題がわかりやすかった。

（会議メンバー）

- ・現在専門職の方々だけが集まり会議をしているが、民生委員等地域の方にも参加していただき、顔つなぎや地域の課題等理解共有していける場になればよいと思う。
- ・いつものメンバーに加え、保健センターやヘルパーの意見も聞くことができとても勉強になった。

（目標設定）

- ・本人ののぞむ生活「目標設定」をケア会議で話あってから開始していく必要がある。
- ・困っていることは書いてあるが、どうしていきたいかが見えにくい
- ・本人の望む生活が具体的に見えにくくどう助言してよいか難しかった
- ・目標設定が曖昧だと、何が課題かということを見出すことが難しくなっていた。
- ・望む暮らしに対して、目標とするところが漠然としていた。
- ・「転倒しないよう」「今の生活が続けられる」とか抽象的なものより、今回の事例にあった「料理がしたい」のような目標を共有しなければ、意欲的な行為・行動につながりにくいと感じた。具体的な目標が重要と感じる。

（課題の抽出）

- ・課題がより具体的だともっと検討しやすくなる
- ・課題と見通しの連動性が曖昧となると本人の状態像がばやける。課題と優先すべき順序を多角的に検討し課題の本質を理解することが重要ではないか
- ・課題に対して脱線せずに会議が進んだため、非常に有意義な会議であった

■地域ケア会議の運営に関する令和元年度アンケート結果

（事例提供・進行）

- ・司会者が居住地等の情報やサービスの提案等や地域課題等を事前に調べて進行していただいているので、とても円滑に進められて意見をいやすかった。
- ・どうしても事例の全体像が見えにくい点は改善が必要（自宅内の写真や動画の活用等）
- ・現状・課題・改善点などをホワイトボードにまとめて話を進めるため状況が把握しやすかった。
- ・ホワイトボードに板書するのは、とてもよいと思った。参加者の共通認識が図れる。
- ・グーグルマップを利用されていたので、地形や家の周囲の環境を知るために、みんなで設定して確認しながら会議をしてもよいのではないかな。
- ・ホワイトボードにまとめておられたが、着座スペースから確認しづらかった。机の配置を検討しても良いと思う。
- ・事前に書類を頂いているので、説明の時間ももったいない。検討の時間にとってもらいたい。

（会議後の経過）

- ・会議後の経過が簡単にわかる機会があればもっと会議をおこなうことの意味が強くなると思います。
- ・助言した事例がどうなったか、解決できたかを調査されたりもしていると思いますが、その結果を参加者等にも教えていただけると今後の参考にもなると思う。
- ・会議で検討し、必要な部分は実践しフィードバックが行われており、素晴らしい。

（助言）

- ・理学療法士・歯科衛生士の助言が専門的すぎる。わかりやすい言葉で伝えてほしい。歯科検診があること、栄養からみたフレイルなど書類で内容確認できよかった
- ・毎回口腔・栄養についての助言は勉強になる。助言集等あればよい。
- ・助言者の立ち位置であれば、参加者から評価されても良いと思う。助言者が心に響く発言がされているか不安もある。ランキングをつけてもらおうと各職種のスキルアップにつながると思う。

■地域ケア会議の運営に関する主な課題と対応策【令和元年度アンケート結果より】

○自立支援における目標と課題を明確にする

対応策1) 9月16日：介護支援専門員対象に課題整理総括表の研修会を開催予定

対応策2) 留意点を意識した会議進行

CMの困り感ではなく、本人の課題について協議をおこなう
目標と課題が漠然としている場合は、会議前に事前準備
整理された目標と課題を参加者一同で確認し、課題に対する助言をもらう
助言を実行するために、それぞれの役割（本人・家族・サービス事業所・CM）を確認する

対応策3) 評価表の修正

（目標設定・課題・助言・実行・評価の一連のつながりを意識した様式に変更）

○地域ケア会議の目的共有

保留中) 自立支援の考え方、地域ケア会議の質の向上にむけた研修会開催

■新型コロナウイルス感染症予防対策に係る新たな課題と対応策

○感染症予防対策の徹底

対応策) 感染防止策チェックリストを作成

○所属の方針により参加が難しい

対応策) ・事前資料から文書による助言参加
・各包括にてWEB（ZOOM）会議の体制整備
参加者自身が個人や事業所のPC・携帯等に対応
または、市会議室に市が準備したZOOM専用PCで参加も相談可能。

*今後早々に感染症が終息するような状況ではないため、地域ケア会議だけでなく研修等の様々な場面でWEB会議での対応となる可能性が高い。特に、各職能団体やサービス事業所については高齢者に直接支援される方が多いため、会議出席が難しくなる状況も考えられる。この機会にWEB会議の活用普及についてもご検討いただきたい。